

2023 年 6 月 9 日
2024 年 2 月 28 日改訂
2026 年 7 月 8 日改訂

学生の皆さんへ

生成 AI の利用に関するガイドライン (旧 : Chat GPT など生成系 AI の利用について)

教務部長 小寺敦之

生成 AI は、近年急速に台頭・普及し始めた技術です。生成 AI は私たちの生活や学修・教育活動を大きく変貌させるばかりではなく、これを活用することで様々な作業の効率化を図ることも期待されます。

しかし、始まったばかりの技術には、利便性だけでなく危険も伴います。学生の皆さんには、その可能性と危険性を十分認識した上で活用していかれることを望みます。

本学では、2023 年 6 月 9 日に「Chat GPT など生成系 AI の利用について」を学生および教職員向けに配信し、2023 年 7 月 21 日に「東洋英和女学院大学における生成系 AI の使用に関する指針」を学内外に公表しました。今回のガイドラインは、学内での議論をふまえて、これまでのガイドラインを大幅に改訂したものです。学修活動において生成 AI を利用する際には、以下の事項に注意してください。

1. 生成 AI とは

本ガイドラインにおける「生成 AI」とは、大規模言語モデル等に基づき、利用者の指示（プロンプト）に応じて、文章・画像・プログラム・動画などをゼロから、あるいは既存のデータを元に自動生成する機能を指します。「AI による生成機能」は、ChatGPT や Gemini といった対話型チャットボットだけでなく、皆さんが普段使うアプリの中にも組み込まれています。

以下の 2 つのパターンのいずれかに該当するものが本ガイドラインの対象となります。

①独立した対話型・生成型サービス（外部ツール型）

AI との対話によって生成することを目的としたサービス（以下の例に限らず、該当するすべてのサービス・機能が対象です）。

文章・汎用：

ChatGPT、Gemini、Copilot、Claude、DeepSeek、Perplexity など

画像・動画・音声：

GPT-Images、Sora、Veo、Sunno、Udio、HeyGen、Midjourney など

②アプリに内蔵された生成機能（組み込み型）

普段使っているソフトの中で「AI に書かせる」「AI に作らせる」といった機能やボタンがあるもの（以下の例に限らず、該当するすべてのサービス・機能が対象です）。

文書・資料作成：

Microsoft 365 Copilot（Word/PowerPoint での下書き生成）、Google Workspace（Docs での文章作成補助）など

クリエイティブツール：

Adobe Firefly（Photoshop での画像生成・拡張）、Filmora（AI 動画編集・生成）、Canva（マジック生成）など

開発・学習：

GitHub Copilot（コード自動生成）、NotebookLM（資料の要約・解説生成・スライド生成）など

生成 AI は、適切に活用することで皆さんの学びを劇的に深める強力なパートナーになります。一方で、その特性を理解せずに使うと、思わぬトラブルや学習機会の喪失につながります。「AI に使われる」のではなく、「AI を使いこなす知性」を身につけましょう。

特に、生成 AI から回答を安易に求めるためだけに利用するのは大変危険です。そもそも生成 AI から正解は安易に出てきません。自分の学習機会を失うだけでなく、思考力、批判的能力、文章校正能力、そしてあなたの信用。すべてを失う可能性があります。

2. 創造性を高めるポジティブな活用法（推奨される場面）

生成 AI は「答えを教えてもらうもの」ではなく、「自分の思考を広げるため」に活用するものです。学習に利用する方法は様々公表されています。自分でも上手な使い方を勉強して、実践してみましょう。

アイデアの壁打ち（ブレインストーミング）：

自分一人では思いつかない多角的な視点やアイデアを出してもらう。難しい問題は、ChatGPT や Gemini などと話し相手にして、どんどん、質問をぶつけてみる。そこから新しいアイデアが生まれる。

構造化の補助：

複雑な概念を「中学生にもわかるように」解説してもらったり、学習計画のスケジュールリングを相談する。対話型 AI なら、資料を与えると、それを易しく要約してくれたり、わかりやすく表にまとめたりしてくれる。NotebookLM なら、それを希望するレベルで音声解説したり動画解説もしてくれるので内容の理解に使える。

英語の AI 教師としての利用：

外国語学習のパートナー、英文の添削（校正・翻訳）として活用する。AI を英会話学校の先生と思って、英会話をする。音声での会話も可能である。間違っても恥ずかしくない相手である。24 時間付き合ってくれる会話の先生になる。

あるいは、ChatGPT や Gemini に学習すべき英語の資料を、自分のレベルに合わせて生成させる。その英文を元にいろいろな問題を生成させることができる。その問題に対する自分の解答を採点させ、添削させることもできる。

効率化：

長大な資料の要約を読み、議論のポイントを整理する。担当する課題資料を NotebookLM などに学習させ、要約、解説、参考となる資料を生成させる。自動生成されたスライドを参考に、自分で新たに作ってみる。

講義科目における予習と復習：

理解できたような感覚や分かった気で終わってしまう講義の理解を補完するために、その日の授業の資料や内容を生成 AI を活用し要約したり、復習の問題を作ってもらったり、

次の授業で想定される内容を提示してもらったりして、自身の学習を高める使い方をしましょう。

授業ノートを生成 AI でブラッシュアップ：

日頃授業でノートに記している板書内容や授業内容をもとに、生成 AI を活用して自分だけのオリジナルドリルを作ってみましょう。また、授業でわからなかった箇所などもメモ書きしておく、生成 AI がその内容を教えてくれます。あなたの得意な部分と苦手な部分を可視化してくれるツールにしましょう。

資料作成のアイデアを得る：

プレゼンテーションなどで使う資料の作成について迷うことも多いでしょう。そういったときに、自分自身が発表する内容をもとに、スライド資料の作成を生成 AI が行ってくれます。ですが、生成された内容をそのまま使うのは、あなたの考えなどが資料に盛り込まれていません。その作成されたものをベースに資料をブラッシュアップして、よりよい資料を完成させてください。

自分の成績を可視化する：

Google Classroom などでは、各課題の点数やコメントが教員からフィードバックされています。それらの内容を生成 AI を用いて可視化し、現在の素点を成績評価点に換算し、評価単位を予想したり、目標とする成績に近づけるためにはどうしたらいいかを生成 AI に聞いてみるなどして、自身の成績をより高めるために使いましょう。

3. 学修における誠実な向き合い方（評価とルール）

生成 AI の使用は必ずしも悪いことではありません。ただし、大学での学びの役割は、AI ではなく「あなた」です。あなたの発表した文章は、それが生成 AI が作ったものでも、他人はあなたの考えや思想と判断します。あなた自身が責任をとるべき文章となります。AI はあくまでアシスタント。最後の決定はあなた自身です。最終責任はあなた自身にあることは理解しましょう。

教員の指示が最優先：

現在、生成 AI の利用については、教員ごとに異なる見解を持っています。使用を完全に禁止している教員、こういう利用なら良いという条件付き教員、自由に使ってよいという教員が混在しています。同じ教員でも授業によって対応が異なるかもしれません。

汎用的な可否はありませんし、本学でも統一基準は定めておりません。そのため、各教員・各授業で、AI 利用についてどこまで何を許容するのか、シラバスや担当教員の指示を必ず確認しましょう。

「自分の言葉」を大切にする：

生成 AI の回答をそのまま提出することは、あなたの思考停止を意味し、「剽窃（ひょうせつ）」とみなされ、厳しい処分の対象となる場合があります。

「自ら考える」ために使用する：

生成 AI はプロンプトを打てば、なんでも返答してくれます。ですが、その内容をただ何も考えずに受け入れてしまうことは、考えることをやめてしまいます。あくまでも、自分がなにかを前向きに思考することのために使いましょう。

プロンプトの開示：

AI を利用した場合は、「どの AI を、どのプロセスで、どう使ったか」を明記することを推奨します（透明性の確保）。

教員がそのレポートに AI を使用しているかどうかを証明することは完全にはできません。しかしながら、日頃の記述の仕方や言葉遣いなどから、作成されたレポートに違和感や

疑念を抱くことは確かです。また、そのようなことを教員（または他者）に抱かせてしまうと、信用や信頼を失ってしまいかねません。ですので、生成された内容をそのままコピーして提出するようなことはせず、あなたの言葉や意見を含めて、文章を参考にしましょう。仮に生成されたものを使用する場合でも、よく内容を読み、加筆・修正を加えましょう。

著作権に留意する：

生成 AI による生成物には著作権を侵害する内容が含まれることがあります。これを用いると意図せずとも剽窃にあたる可能性があります。生成 AI の利用に伴って生じた不利益や損害等には、利用者本人が責任をもって対応しなければなりません。リスクを正しく理解するように努めてください。

著作権に留意することだけでなく、あなたが使っているシステムやアプリケーションで、あなたが作成したものが知らないうちに AI の学習対象になっている可能性もあります。よく使う前に著作権の同意事項を確認するようにしましょう。

4. 安全に使いこなすための知恵（情報管理）

ネット上の公共の場に情報を出すのと同じ意識を持ちましょう。

秘密は入力しない：

自分や他人の個人情報、未発表の研究データなどは入力しないでください。生成 AI がそれを学習し、意図せず他者に回答してしまうリスクがあります。

設定の確認：

履歴を残さない設定（オプトアウト）などを活用し、プライバシーを守るスキルを身につけましょう。ただし、オプトアウトは完全ではありません。「学習しない」「公開しない」という言葉を信じてはいけません。AI のプロンプトに入れた情報は、永遠にネットの世界になにかしらの形で残るという認識は持っておいてください。そのため、他人に知られたくない情報は、AI に限らずネットには書き込まないのが原則です。

以前流行した「ジブリ風」で、もしかして自分や家族の顔写真をアップしませんでしたか？ その写真は学習に利用され、どこかで誰かに生成され利用されているかもしれませんよ。

5. 批判的思考（クリティカル・シンキング）の徹底

生成 AI は「もっともらしい嘘（ハルシネーション）」をつくことが、現在でもかなりあります。AI が生成した文章や画像のファクトチェック（事実かどうかを確認すること）を怠らないでください。素晴らしい嘘の文章、美しいでたらめな図、完全に見える抜けだらけの表。そういうものが生成されることが多々あります。

根拠のダブルチェック：

生成 AI が出した情報は必ず信頼できる文献やデータで裏付けを取りましょう。AI が出した結果を自分で検証すれば自信をもって発表できます。

あるいは、生成 AI に出典を示すように指示し、その出典を必ず確認しましょう。中には架空の参考文献や、全く異なる文献を提示することもありますので確認は必須です。

バイアスの自覚：

生成 AI の回答には偏った価値観や差別が含まれる可能性があります。提示された内容を鵜呑みにせず、自分の倫理観で再評価してください。

AI に人格はありません。差別・偏見など平気で話します。あたかも世界中の人がそう思っていると発言してきます。その妥当性を判断するのはあなた自身です。AI の結果にあなた自身が評価をし、大丈夫だと思ったら利用しましょう。それができるようになれば AI は本当に強い味方になってくれます。

ある意見が生成されたなら、逆に、その反論も生成させてみましょう。両方を比較して、最後は自分で判断しましょう。

6. AI リテラシーを磨き続ける

生成 AI の世界は日々進化しています。最新の動向に関心を持ち、技術的な限界と倫理的な課題の両方を理解することで、社会に出た際に「AI を正しくリードできる人材」を目指してください。

①事例から学ぶ

多くの企業や団体が生成 AI の活用事例を公開してくれています。学業や社会に出たから活用できる事例を常に確認しておきましょう。

Google が提供している活用事例

<https://blog.google/intl/ja-jp/feed/gemini/>

AI を用いた学習のための参考サイト「大学生のための AI 活用アイデア集」 (Google 社)

https://services.google.com/fh/files/misc/geminiforstudents_handbook_2025nov.pdf

②検定試験を受けてみる

現在生成 AI に関する代表的な検定試験は以下の2つです。これらにチャレンジするのも良いでしょう。

G 検定 (ジェネラリスト検定) : 一般社団法人日本ディープラーニング協会 (JDLA)

生成 AI パスポート : 一般社団法人生成 AI 活用普及協会

③AI に関する最新情報を知る

AI は日々進化しているため、以下を実践してください。

- ・ 大学および授業の AI 利用ガイドラインを定期的に確認する
- ・ 利用している AI ツールの公式情報や更新内容をチェックする
- ・ 信頼できる情報源から AI に関する最新動向を把握する
- ・ AI の出力は必ず自分で確認・検証してから使用する

AI の活用方法は固定された知識ではなく、常に更新され続ける「実践的スキル」です。学生はツール任せにするのではなく、大学の方針や信頼できる情報源を確認しながら、自ら最新情報を収集し、適切に判断して利用してください。

以上